

## 1. 略歴

- 1986年 3月 東京大学文学部宗教学宗教学史学専門課程 卒業  
1986年 4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻修士課程 入学  
1988年 3月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻修士課程 修了  
1988年 4月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程 進学  
1991年 9月 シカゴ大学大学院ディヴィニティ・スクール宗教史専攻留学 (至1994年6月)  
1995年 12月 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教学史学専攻博士課程単位取得退学  
1996年 1月 日本学術振興会特別研究員 (至1998年12月)  
2001年 4月 大正大学文学部国際文化学学科助教授  
2006年 4月 大正大学文学部表現文化学学科教授  
2010年 4月 大正大学文学部人文学科教授  
2011年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻宗教学宗教学史学専門分野准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

宗教学 (理論研究・比較研究)、宗教と教育の関係、アメリカの宗教

宗教学の基礎でありながら、20世紀後半以降、方法として成立し難くなった「比較」に注目し、その観点から、理論研究を行うとともに、ケーススタディとして宗教と教育の関係やアメリカの諸宗教を分析している。

### b 研究課題

宗教比較の方法、宗教史の記述について、学界ならびに一般社会に見られる問題とその背景・原因を洗い出し、具体的対案を提示することを課題とする。個々の課題設定は以下の通りである。

(1) 比較理論の検討として、①欧米宗教学の変遷、②宗教分類概念の問題をとりあげる。

①「比較宗教学 comparative religion」から出発した欧米の宗教学とその基礎前提が、その後通時的・実証的研究を重視することによってどのように変化したか、また、1970年代前後には共時的研究である構造主義をどのように受容したかを調べる。人文的宗教学と社会科学的宗教学の制度的位置関係についても、その歴史の変遷過程を明らかにし、その中での国際学会の役割を批判的に検討する。

②「世界宗教」「民族宗教」の対概念をはじめ、宗教学で伝統的に用いられてきた宗教分類概念の妥当性を、昨今の批判理論に照らして検討する。特にマックス・ウェーバーの宗教社会学(「世界宗教の経済倫理」)の受容が、日本とアメリカの宗教学でどのように異なるかに焦点を当て、何がその違いをもたしたのか、それが今日の両国の学界・社会におけるマクロな宗教比較言説をどう規定しているかを調べる。

(2) 近現代社会の公教育において宗教がどう扱われてきたかに関する歴史的研究を行う。

ある国の公教育では宗教が排除される、他の国では宗教が取り込まれるという現象を、単に「宗教教育の有無」や「政教分離の有無」として見るのではなく、排除・吸収どちらの場合でもその前提として公権力により「宗教」が定義されているということに注目し、各国の教育制度と法令・教科書の中にその表れを探る。一般概念としての「宗教」のみならず、キリスト教、仏教といった各宗教に関する記述と、教育方法・思想や当該国の宗教・社会情勢の関係を調べる。対象国はイギリスとアメリカを中心とし、共同研究による10カ国比較の成果も取り入れる。

(3) (2)の研究成果を踏まえ、国内の公教育における宗教の描き方・教え方に関する問題点を指摘し、改善のための具体的方策を示す。対象は中等教育から高等教育、社会人教育を含む。

### c 主要業績

#### (1) 著書

編著、山中弘・藤原聖子、『世界は宗教とこうしてつきあっている—社会人の宗教リテラシー入門—』、弘文堂、(編集の他、1-101+i-vii頁を執筆)、2013.12

#### (2) 論文

藤原聖子、「「コギト」の構造主義?—ジョナサン・Z・スミスと北米宗教学—」、『東京大学宗教学年報』29、1-16頁、2012.3

藤原聖子、「カナダ」、『海外の宗教事情に関する調査報告書』、46-68頁、2012.3

藤原聖子、「大震災は〈神義論〉を引き起こしたか」、『現代宗教 2012』、49-67頁、2012.7

藤原聖子、「アメリカにおける人文系宗教学の制度的位置—「神話と儀礼」としての「宗教」概念の由来—」、『東京大学宗教学年報』30 特別号、103-124 頁、2013.3

Satoko Fujiwara, "Reconsidering the concept of theodicy in the context of the post-2011 Japanese earthquake and tsunami," *Religion*, 43/4, pp.499-518, 2013.4

藤原聖子、「岐路に立つ国際宗教学会—学会誌の分析から—」『世界の宗教といかに向き合うか（月本昭男先生退職記念献呈論文集 第1巻）』、301-316 頁、2014.3

(3) 書評

「高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編『宗教と社会のフロンティア』、『宗教研究』376、223-238 頁、2013.6

“Inken Prohl and John Nelson eds., *Handbook of Contemporary Japanese Religions*,” *Religious Studies in Japan*, Vol.2, pp.53-58, 2014.1

(4) 学会発表

国際、Satoko Fujiwara, “‘Geertz vs. Asad’ in RE textbooks: A Comparison between Warwick’s Ethnographical Textbooks and Indonesian Textbooks,” European Association for the Study of Religion, Stockholm, Sweden, 2012.8.25

国際、Satoko Fujiwara, “Why RE in Japan?,” RE 21 Conference, University College Cork, Ireland, 2013.8.29

国内、藤原聖子、「国際学会誌の「宗教学」なるもの」、日本宗教学会、國學院大學、2013.9.8

(5) 教科書

『高校倫理』、矢内光一編、執筆、実教出版、2013

(6) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 C、藤原聖子、研究代表者、「ポスト多文化主義における公教育と宗教の関係」、2012～2014

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、大正大学、「宗教学特論」、2011.9～

(2) 学会

国際、International Association for the History of Religions、executive committee、2010.8～

国内、日本宗教学会、理事、2011.4～

(3) 日本学術会議

連携会員、2011.10～

(4) 学術雑誌編集委員

Journal of Religion in Japan (2012～)、Religion and Education (2011～)、Numen (2010～)

British Journal of Religious Education (2006～)、Teaching Theology and Religion (2006～)

(5) その他

文化庁宗務課「宗教法人制度の運用等に関する調査研究協力者会議」への協力、2013